
死神少女・幽霊少年

さらーん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

死神少女・幽霊少年

【Nコード】

N8372J

【作者名】

さらーん

【あらすじ】

死神少女 その名は「高山ありす」
生まれたときから死神という少女

幽霊少年 その名は「木村葉月」
なぜか幽霊になってしまった少年

・ あるひありすの兄修二がいなくなる 兄の修二を捜していると・・・

幽霊になった少年葉月は自分はなぜ死んだのかを知るために
家族を探している

いっとうなるかわからないのにも・・・・・・・・

死神少女―ありす物語―

私は死神少女

名は高山ありす 13歳

家族は兄 名は修二

また私の一日が始まる

夜

事件は起こった

兄が居なくなつたのだ

家を探す

でもないのだ

探しに行こう

あの街へ

兄がいつも言っているお店に行く

それでもいない どこへいったのだろうか

「ドン」

なんの音だ？肩がいたい

「あれ・・・？」

男の子？の声がする

人間・・・？

実体化してみる するとぶつかったひとがみえた
少し透けている

「あなたは？」

「・・・見えるのか？」

「・・・うん」

人のいない街にこんな男の子がいたんだ

「お前 何者？ オレは木村葉月。13歳 幽霊だ」

「・・・幽霊・・・？」

「そうだ」

「私は高山ありす 13歳 死神 兄を捜してます」

「13歳・・・ 一緒か よろしく。手伝うから 探してるってなら」

私よりは背が高い 176cmくらいだろう

「今日はいいの 家に帰る」

「正直 恥ずかしいけど、家ないんだ」

「泊まってく？」

「家の中で兄をまつてる」

自分の家に帰る

「結構いい家だな」

「そう？」

ふとんに入って寝る

次の日

「どこいくんだ？」

外にでたらドアの外に 葉月がいた

「友達のところ 一緒に行く？」

「いつてくればいい さようなら」

いつの間にか葉月は消えてしまった

「ピンポン」

親友の西田凜の家に来た

「だれ？」

「ありすだよ 凜？」

「ありすかぁ 入ってイイよ^^」

リンの家に入る

「どうしたの？」

イスにすわる 凜はベットにすわる

「もしかして 恋したとか？」

「そんなことじゃない！ 修二がいないの」

「え・・・」

一瞬時が止まった

「いつから・・・？」

一応紹介

西田凜 13歳 女 心優しい女の子 家族は兄と姉の2人

「昨日 気が付いたら」

「ふーん オレにはそんなことってなかったけどな」

葉月がいた

「この人は・・・？」

「人じゃない 幽霊。葉月」

「ふーん」

少し葉月に睨まれた でも無視

「りくさんのところは？」

「まだ」

「じゃあ いったら？」

「うん」

りく とは

高橋りく 修二の親友 やさしい16歳 人間w

「ここ？」

「うん」

チャイムが鳴る

「だれ？」

「高山です 修二兄いますか？」

「いるよ」

「・・・・・・。」

ここだったのか

わたしは

ここにきてれば・・・・

その後 家に帰る 朝になっていく

朝になると 死神は家へ入っていく

まあ人間と反対

昼と夜みたいなものだから

おやすみ

年ー葉月物語ーへ続く

幽霊少

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8372j/>

死神少女・幽霊少年

2010年10月9日03時27分発行